

北信越ブロッククラブネットワークアクション 2018 開催報告

日 時： [1 日目] 平成 30 年 11 月 17 日（土） 13：00 ～ 17：20
 [2 日目] 平成 30 年 11 月 18 日（日） 9：00 ～ 12：00

会 場： NSG 学生総合プラザ STEP（ステップ）

テ ー マ： 総合型クラブスタッフの世代交代を見据えた人材育成

[1 日目]	1. 共通プログラム「障がい者スポーツへの取り組み事例及び競技紹介・競技体験」 2. 独自プログラム「世代交代を意識したクラブの若手とベテランの対談」
[2 日目]	1. 独自プログラム「世代交代を見据えた人材育成」

参 加 者:104 名

【概要】

全国共通プログラムでは、障がい者スポーツへ取り組むクラブの事例発表がありました。ついで新潟県障害者スポーツ協会より「障がい者スポーツの紹介」と題して、ご講演いただきました。また会場内には、障がい者スポーツの用具展示が行われ、参加者の皆様が手に触れて体験されていきました。

開催ブロック独自プログラムでは、2 日間を通じて昨年度に引き続き世代交代に焦点を当てました。1 日目は「世代交代を意識したクラブの若手とベテランの対談」と題して、2 クラブより世代交代の事例発表がありました。2 日目は「世代交代を見据えた人材育成」と題し、北信越ブロック内 5 県から、5 年以内の勤務スタッフ 2 名、5 年以上の勤務スタッフ 3 名の各若手スタッフが、自分自身の成長の軌跡を発表しました。その後、グループワーク形式により、参加者同士で自らの成長の振り返りを行いました。

設定したテーマの関係からか、若手スタッフの参加が非常に多いクラブネットワークアクションとなりました。

【内容】

[1日目]

共通プログラム「障がい者スポーツへの取り組み事例及び競技紹介・競技体験」

はじめに、新潟県のNPO法人ネージュスポーツクラブ・関口芳平氏より「十日町市における障がい者スポーツの普及促進」と題し、障がい者スポーツサークルの立ち上げから、普及促進事業、スポーツ庁や十日町市からの受託事業、指導者養成研修会、教室、大会などの活動紹介がありました。

続いて、新潟県障害者スポーツ協会理事 丸田徹氏より「障がい者スポーツの紹介」と題したご講演をいただきました。東京2020パラリンピックに向けて地域への普及促進、障がい者や障がいに対する理解促進、障がい者スポーツの特徴や意義といった幅広い内容をお話いただきました。

丸田氏はご自身も卓球の指導者であることから、世界的に活躍する選手の育成も手掛け、東京2020パラリンピックに向けて活動されているそうです。



独自プログラム「世代交代を意識したクラブの若手とベテランの対談」

最初に、新潟県魚沼市NPO法人エンジョイスポーツクラブ魚沼の高木貞介が、第1世代として何を伝えたかったのかを発表し、次に同クラブの第2世代の星俊寛氏が、何を伝えてほしかったのかを発表しました。その後、星氏がクラブに加わった平成17年からの主な出来事を通じて、何が伝わっていったかを対談しました。

続いて、石川県のNPO法人宝達志水スポーツクラブの橘実氏（第1世代）と越野貴成氏（第2世代）のそれぞれが同じように発表を行いました。

その後、コーディネーター役の高木貞介も含め、4人の対談が行われました。第1世代には、第2世代がクラブに入った時の思いを、第2世代にはその時何を期待したのかを、また、相手から大きく影響を受けた事柄や、それぞれが自分自身で成長したと思われる事柄などを発表していきました。

最後に、どんなクラブを作りたいのか、次の世代に何を残していきたいかを、意見交換しました。

両クラブに共通していたことは、世代交代はバトンタッチではなく、長い時間をかけて第1世代、第2世代が学び合い、成長し合う関係からなされるということでした。



[2 日目]

独自プログラム「世代交代を見据えた人材育成」

西原康行副実行委員長をコーディネーターとしてプログラムを行いました。クラブに入って5年内、5年以上の若手スタッフの成長の軌跡発表がありました。

5年以内の若手スタッフとして、

○真野七彩氏（うおずスポラ／富山県）

- ・経験：1年半
- ・転機、思ったこと：子供との接し方で苦勞した話。あいさつの大切さ。会員とコミュニケーションを多くとるよう努力したこと。沢山の素晴らしい上司に恵まれていること。

○伊坂綾子氏（さばえスポーツクラブ／福井県）

- ・経験：1年半
- ・転機、思ったこと：日程調整や会場確保などで、ミスをしないように緊張したこと。地域にスポーツクラブがある事の大切さ。初めての企画運営。日々の経験が役に立っていくこと。平成30年豪雪での対応。国体に総合型地域スポーツクラブが関わることの大切さ。

○山田恭輔氏（スポーツコミュニティ軽井沢クラブ／長野県）

- ・経験：4年
- ・転機、思ったこと：中学の時のトレーナーとの出会いで、スポーツに関わる仕事がしたいと思ったこと。カーリング大会のパーティーに関わり終了時に涙が止まらなかったこと。国体の障がい者スポーツを担当し、参加者、行政、クラブより高く評価されたこと。成長の自覚はないが、自信はついたこと。自身が影響を受けた上司が退職したら、その上司のようになりたいと思うこと。

と皆さんが、入社直後より様々な体験を通じて、学び成長したことを発表しました。

5年以上の中堅スタッフでは

○浅田啓介氏（もんぜんスポーツクラブ／石川県）

- ・転機、思ったこと：民間のスポーツクラブを経てクラブに加わったこと。高齢者へのストレッチ指導で様々な配慮に気付いたこと。指定管理を常勤1名でやったこと。チラシ作成での試行錯誤。指定管理の申請書を作成したこと。会議の司会を初体験したこと。イベント運営を任されたこと。そしてクラブマネジャーを任されたこと。

○阿部弘典氏（ハピスカとよさか／新潟県）

- ・転機、思ったこと：入社時は受付係でクラブが好きになるとは思わなかった。高齢者指導補助から指導者に。その後、健康運動指導士を取得したことがターニングポイント。出張講座を担当。人との出会いが好きに。勤めながら大学院で学んだことが、人生の中で大変濃密な時間だったこと。ドイツ視察で素晴らしいクラブを見たこと。地区の連絡協議会で企画した研修、イベントが中止となり、自分の力のなさを実感したこと。多くの人のことを考えられるようになったこと。県連絡協議会運営委員となりクラブ以外を心配するようになったこと。

などの話があり、多くの経験の中から沢山の学びや気づき、成長があったことがわかりました。

総合型地域スポーツクラブという新しい分野だけに、他の職場とは違う状況で、若手も中堅も経験年ごとに新たな学びを積み重ね、成長していったことが理解できました。

後半は、参加者が12グループに分かれ、ワークシートで自らの成長の記録を発表し合いました。最後に、各グループのファシリテーターにより感想が述べられ、プログラムは終了しました。



【まとめ】

平成7年に、国の総合型地域スポーツクラブのモデル事業が始まってから23年目となります。当時設立されたクラブは世代交代を迎え始めました。今後も世代交代クラブが増えていくものと思われれます。

クラブの世代交代は、どれだけ質の高いクラブを次の世代に引き継いでいくかが重要です。第1世代と第2世代が、共に学び合いながら、共に成長していくと同時にクラブが成長し、質の高いクラブへとつながっていきます。そんな学びと成長を第1世代と第2世代のオーバーラップの中で実現していくことが必要なのではないのでしょうか？

人づくりがクラブの質を高め、そして引き継がれていきます。そんな意図で今回はベテランに加え、特に若い人たちに対しての参加を各クラブに呼びかけました。結果、多くの若手の参加を得ることができました。

北信越5県のベテランと若手が、事例発表、対談、成長の軌跡発表、成長の振り返りワークを通じて、たくさんの情報を持ち帰れたと思います。

今後の総合型地域スポーツクラブの次の目標でもある、「クラブの質的な充実」へとつながる2日間となりました。

(北信越ブロッククラブネットワークアクション実行委員長 高木 貞介)

※本ネットワークアクションは、東京2020応援プログラム(スポーツ・健康)として実施しました。

